OGAWA　KYOKO

# 小 川　恭 子　准教授

研　　究　　業　　績　　2018 年 4 月 1 日現在

| 著書・論文等の区分 | 著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数 | 発行・発表 年　月 |
|---|---|---|
| 著　書（共） | 『心理アセスメントハンドブック』、西村書店、48～57 頁 | 2001. 6 |
| 著　書（共） | 「地域環境と健康心理」『健康のための心理学』小林芳郎編、保育出版社、110～112 頁 | 2006. 4 |
| 著　書（共） | 「第 2 部第 4 章 学校で生かせる心理学－学校臨床－」『臨床心理学ことはじめ』花園大学社会福祉学部臨床心理学科編、ナカニシヤ出版、77～86 頁 | 2012. 3 |
| 著　書（共） | 「第 10 章 子育て支援」『実践に役立つ臨床心理学』（第 3 版）、塩崎直美編著、北樹出版、168～186 頁 | 2015. 4 |
| 論　文（共） | 「悲嘆の心理過程と心理学的援助」『カウンセリング研究』第 30 巻、49～67 頁 | 1997. 2 |
| 論　文（共） | 「喫煙動機評価尺度（RSAS）の作成ならびにニコチン依存が喫煙のストレスコーピングとしての役割に及ぼす影響」『早稲田大学人間科学研究』第 11 号、101～108 頁 | 1998. 3 |
| 論　文（共） | 「喫煙行動の形成過程と喫煙が精神機能に及ぼす影響の研究」『喫煙科学研究財団年報』、665～670 頁 | 1998. 6 |
| 論　文（共） | 「相談機関の利用に関する小中学校教職員のニーズについて」『広島国際大学心理臨床センター紀要』第 4 号、広島国際大学心理臨床センター、69～75 頁 | 2006. 3 |
| 論　文（共） | 「心理療法における失敗要因とその防止策について」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第 16 号、43～52 頁 | 2008. 3 |
| 論　文（共） | 「セルフ・コントロールが社会的スキル、抑うつ、不安に及ぼす影響」『花園大学心理カウンセリングセンター研究紀要』第 2 号、37～43 頁 | 2008. 3 |
| 論　文 | 「児童福祉を専攻する大学生の進学理由と達成動機との関連」『花園大学心理カウンセリングセンター研究紀要』第 9 号、5～11 頁 | 2015. 3 |
| 論　文 | 「児童福祉を専攻する大学生の大学進学動機と適応との関連」『花園大学心理カウンセリングセンター紀要』第 10 号、29 頁～37 頁 | 2016. 3 |
| 論　文 | 「保育者養成課程の学生の実習履修動機」『花園大学心理カ | 2017. 3 |

| | | |
|---|---|---|
| | ウンセリングセンター研究紀要』第 11 号、23-29 頁 | |
| 調査報告書 | 「喫煙行動とコミュニケーション方略、セルフコントロールとの関連」『平成 19 年度財団法人たばこ総合研究センター助成研究報告』財団法人たばこ総合研究センター、133～155 頁 | 2008.11 |
| 翻　訳（共） | 『ストレスと快楽“Pleasure and Quality of Life”』、（上里一郎監訳、15 名分担翻訳）、金剛出版、70～82 頁 | 1999.10 |
| 翻　訳（共） | 「８　早期に発症する疾患」上里一郎・瀬戸正弘・三浦正江監訳『異常心理学大事典』西村出版、282 頁～325 頁 | 2016. 8 |
| 学会発表（単） | 「自閉症児への指導的介入と母親の支援」『日本カウンセリング学会第 37 回大会発表論文集』、364～365 頁 | 2004. 9 |
| 学会発表（共） | 「セルフ・モニタリングと適応との関連（1）」『日本心理学会第 69 回大会発表論文集』 | 2005. 9 |
| 学会発表（共） | 「小中学校教職員の相談機関の利用にかかわる要因」、日本健康心理学会第 20 回大会 | 2007. 9 |
| 学会発表（共） | 「インターネット、携帯メールへの依存傾向と自尊感情、ストレス反応との関連」、日本健康心理学会第 21 回大会、桜美林大学 | 2008. 9 |
| 学会発表 | 「大学生の友人関係進展時の自己呈示への動機づけと不安」日本カウンセリング学会、山形大学 | 2016. 8 |
| 学会発表 | 「保育者養成課程の大学生の大学進学動機と実習への動機、気分の関連」日本カウンセリング学会、跡見学園女子大学 | 2017. 9 |